

地域社会学会会報

No.223 2021.9.28

地域社会学会事務局 Office of Japan Association of Regional and Community Studies
〒020-0693 滝沢市巣子 152-52 岩手県立大学総合政策学部
吉野英岐研究室内

TEL 019-694-2724(直) FAX 019-694-2701 郵便振替 地域社会学会 00150-2-790728
E-mail jarcs.office@gmail.com URL <http://jarcs.sakura.ne.jp/>

◆…………… 〈 会報 223 号のトピック 〉 ……………◆

- 1) 第 1 回研究例会報告の報告論文および批評論文（旧印象記）は、別途発行の「地域社会学会ジャーナル」No.2（WEB 版）に掲載されます。
- 2) 2021 年度会費納入をお願いします。詳細は 5 ページをご覧ください。
- 3) ご異動等の場合は早めに新しいご所属・ご住所、メールアドレスを事務局までご連絡下さい。

目 次

10 月 9 日（土）開催の第 2 回研究例会ご参加のみなさまへのお知らせとお願い

1. 理事会からの報告
2. 研究委員会からの報告
3. 編集委員会からの報告
4. 事務局からのお知らせ
5. 会員異動
6. 会員の研究成果情報
7. 理事会のご案内

2021 年度第 2 回研究例会のご案内

日時 2021 年 10 月 9 日（土）13 時～16 時

方式 Zoom によるオンライン開催

第 1 報告 根本雅也（松山大学）

「都市における厄災の意味——「ヒロシマ」をめぐる力学」

第 2 報告 山本崇記（静岡大学）

「地域社会で差別を捉え直す——住民運動という視点への転換」

※アクセス方法等は、開催 1 週間程度前をめどに、会員メーリングリストで配信します。

10月9日（土）開催の第2回研究例会ご参加のみなさまへのお知らせとお願い

<事前の準備のお願い>

- ◆事前に Zoom のアプリをインストールしておいてください。インストール済みの方は、「アップデートを確認」で最新バージョンに更新しておいてください。
- ◆Zoom のアクセス方法等は、開催1週間程度前をめどに、会員メーリングリストで配信します。
- ◆Zoom のリンクやミーティング ID、パスワードは、他人に教えないでください。

<当日のお願い>

- ◆所定時刻の5分ほど前から、待機室の設定を解除して入室できるようにします。ただし、直前の打ち合わせが長引くなどで、待機室の設定解除が遅れることもあります。その場合は待機室でお待ちください。
- ◆ミーティングルームに入ったら、司会者と報告者以外は、マイクは「ミュート」にして、発言時のみ「ミュート解除」にしてください。ビデオはオンでもオフでも結構です。適切な操作がなされていない場合には、主催者がミュートにするなどの操作をすることがあります。
- ◆画面に表示する氏名は、「フルネーム（所属）」に変更しておいてください。
- ◆研究例会は、研究委員会が記録用にレコーディングします。接続・参加をもってレコーディングに承諾いただいたものとみなします。研究委員会以外の方（報告者も含めて）が Zoom の画面を撮影したり、録画・録音したりすることは禁じます。

<配布資料について>

- ◆報告者から当日配布資料があるときは、Zoom のチャット機能を利用して配布します。
- ◆配布のタイミングは、各報告の開始時と開始10分後の2回です。

<質問・発言について>

- ◆質疑応答の際には、チャットで発言希望の旨をお伝えください。司会者の許可なく発言することはご遠慮ください。

<当日の Zoom 操作に関する相談窓口>

- ◆当日、「接続できない」などの不測の事態に備えて、Zoom 操作に関する相談窓口としてサポートセンターを開設します。メールでご連絡ください。

当日サポートセンターの連絡先

- ◇メールアドレス [le1408aucha\[at\]gmail.com](mailto:le1408aucha@gmail.com)
(小文字のエル・イー・数字の1408・小文字のエー・ユー・シー・エイチ・エー@...
です。[at]を@に変えて下さい。)
- ◇当日配布資料の再配布はありません。

<終了後の懇談について>

- ◆研究例会は16時終了の予定ですが、終了後30分間程度、Zoom のミーティングルームを開放しておく予定です。意見交換や情報交換、懇談などにご活用ください。例会とあわせてご参加をお待ちしています。

<問い合わせ先>

- ◆当日の Zoom 操作に関する以外、研究委員長（丸山真央）までメールでお問い合わせください。 Email: [maruyama.ma\[at\]shc.usp.ac.jp](mailto:maruyama.ma@shc.usp.ac.jp) ← [at]を@に変えて下さい。

1. 理事会からの報告

2021年度地域社会学会第1回理事会は、2021年7月10日（土）10時から12時まで、オンラインで開催されました。ここでは報告事項として7件、協議事項として6件が議論されました。報告事項の詳細は各委員会報告等をご覧ください。

出席者：浅野慎一、鯨坂学、伊藤亜都子、大倉健宏、小内透、清水亮、高木竜輔、田中里美、玉野和志、徳田剛、中澤秀雄、速水聖子、藤井和佐、丸山真央、室井研二、文貞實、矢部拓也、吉野英岐

報告事項

1. 前回理事会（3月27日）議事録案確認
2. 研究委員会報告
3. 編集委員会報告
4. 国際交流委員会・ISA-RC21担当報告
5. 社会学系コンソーシアム担当報告
6. 学会賞選考委員会報告
7. 事務局報告

協議事項

1. 会員異動（新入会員）について
2名の入会を承認しました。
2. 年報末尾での地域社会学会役員一覧の掲載について
年報発行元の東信堂より、年報末尾に地域社会学会役員一覧を掲載してはどうかという提案があり、編集委員会からあり、協議の結果、掲載を認めることとしました。
3. “Urban and Regional Studies beyond Borders”のジャーナルへの掲載について
年報での掲載が予定されていた“Urban and Regional Studies beyond Borders”を機動的に掲載できるように、新設されるジャーナルへ掲載してはどうかという案件が提案され、協議の結果承認されました。今後、ジャーナルの発行規程について見直しが必要な場合は改定案を作成することとしました。
4. 名簿の発行について
会員名簿はこれまで3年に1回発行されてきており、通常であれば2020年度が発行年度でした。ただ、コロナの影響もあり、まだ発行されていません。名簿は紙媒体で発行され、これまでの掲載項目は氏名、所属先機関・所属先住所、自宅住所、TEL、メールアドレスです。このうち会員の希望により掲載を見合わせることもできる項目もあります。
今回は名簿について①作成の必要性、②作成媒体、③作成方法・会員への依頼方法、④掲載項目について議論しました。協議の結果、今回は紙媒体での発行を前提にした作業と、データベースの作成の両方の作業を行い、将来的には紙からデータベースに段階的に移行していくことが提案され、承認されました。なおデータの更新作業が事務局の負担になることから、将来は会員が自らデータ（氏名、所属、メールアドレス）を修正することも模索すべきという意見もありました。今期は、会員に従来どおりハガキをだして最新情報を確認する方式が提案されました。今後はグーグルフォームの活用も提案されましたが、名簿システムを開発したり、作成作業自体を外注することは、経費の面で学会に大きな負担がかかることから、そこまではしなくてもいいのではないかと意見もありました。
5. 理事の多選制限について
理事の多選制限については、吉野庶務担当理事から通算で10回の理事就任を上限とする方向で議論を進めはどうかという提案がなされ、理事会としてこの方向で議論を進めていくこととしました。

6. その他

担当理事から現在。学会所有する Zoom のアカウントは1つだけ（庶務担当理事が管理）であることと、庶務担当理事が様々な都合で業務が担当できない場合、あるいは各種委員会の開催にあたって Zoom のアカウントが必要なことから、アカウントの増大について今後考えていくこととしました。

（吉野英岐）

2. 研究委員会からの報告

7月10日に第1回研究例会が開催され、参加者は54名でした。このところの研究例会は、コロナ禍前の研究例会と比べて、参加者が多い傾向が続いています。各報告や議論の内容は、『地域社会学会ジャーナル』第2号の報告論文と批評論文をご参照ください。

第1回研究例会の終了後、Zoom のミーティングルームをしばらく開いておいて、会員の懇談や情報交換の場とする試みをしました。最大20名近い会員の皆様にご参加いただき、当初は30分程度のつもりでしたが、報告者への質問やコメントをはじめ話が尽きず、1時間半近くに及びました。コロナ禍の前の懇親会の機能をごく一部であれ補完する試みとして悪くないのではないかと感じました。第2回研究例会の終了後も同じようにミーティングルームを開放しておく予定です。ぜひご参加ください。途中入退は自由です。

その前に、肝心の第2回研究例会ですが、2019年度と2020年度の学会賞受賞者のなかから、根本雅也会員（松山大学、第13回奨励賞（個人著書部門）、『ヒロシマ・パラドクス』勉誠出版）と山本崇記会員（静岡大学、第14回奨励賞（個人著作部門）、『住民運動と行政権力のエスノグラフィ——差別と住民主体をめぐる〈京都論〉』晃洋書房）にご登壇いただき、受賞作を中心にご報告いただきます。「新型コロナ禍のなかで地域社会学は何を問うのか」という今期の研究委員会のテーマにとっても、間接的であれ示唆深い議論になるのではないかと思います。皆様のご参加をお待ちしています。

（丸山真央）

3. 編集委員会からの報告

本年度第1回編集委員会を8月1日に開催しました。年報第34集の編集作業の手順やスケジュールの確認、書評対象図書や執筆者の選定、執筆要領の改善に関する検討を行いました。昨年度は新型コロナウイルスの影響で変則的なスケジュールとなりましたが、今年度から従来通りのスケジュールに沿って編集を進める予定です。

〈年報第34集の原稿募集について〉

年報第34集（2022年5月発行予定）の募集要項は前号（222号）でお知らせしたとおりです。自由投稿論文の提出締切は9月末日（必着）となっております。奮ってご投稿ください。投稿規定・執筆要項・著作権規定等は学会 HP（「出版・刊行物」欄の末尾にリンク）に掲載してあります。

〈自由投稿論文審査規定について〉

編集委員会では、自由投稿論文の審査基準を明示するため、「自由投稿論文審査規定」を定めています。本規程はホームページ（「出版・刊行物」欄の末尾にリンク）にも記載されていますので、投稿予定の方はご参照ください。

（室井研二）

4. 事務局からのお知らせ

1. 会費納入状況

2021年5月21日時点で、会員数は388名（一般350名、院生26名、終身12名）、2021年度の会費納入率は66.2%（7/10時点の会費納入の必要な376名のうち249名が支払済でした）。

2. 次回大会について

総会で承認されましたように次回大会の開催校は群馬大学（担当：新藤慶会員）です。現時点では対面での開催を前提に群馬大学の教室等の予約を進めています。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン開催またはハイブリッド開催も考えられます。

3. 2021年度の会費納入のお願い

2021年度の会費納入について、未納入の場合は納入をよろしくお願ひします。郵送された払込用紙のない方は、郵便局の窓口備え付けの青い払込用紙に、口座番号（00150-2-790728）、加入者名（地域社会学会）、会員ご本人の氏名・ご住所と、通信欄に「2021年度会費」を明記の上、会費（一般会員6,500円、院生会員5,000円）のご送金をお願いします。2021年度分の会費の振込確認ができた会員には、『地域社会学会年報』第33集をお送りします。

4. 2021年度研究例会の予定

今年度の第2回目以降の研究例会の日程が以下のように決まりました。

第2回	10月	9日（土）	13:00-16:00	オンライン
第3回	12月	4日（土）	13:00-16:00	オンライン（予定）
第4回	2月	5日（土）	13:00-16:00	オンライン（予定）

5. 会員異動

（略）

6. 会員の研究成果情報(2019年～2021年)

新着情報はありませんでした。会員の研究成果について、引き続き、2020年以降の研究成果に関する情報を募集しています。用紙（地域社会学会WEBサイトからMSワード版がダウンロードできます）の情報を、事務局宛のメール（あるいはファックス）でお送りください。ご協力よろしくお願いします。万一、情報を提供したのに掲載されていないなどの手違いがございましたら、事務局まで御一報くださいますようお願いいたします。

7. 理事会のご案内

第2回理事会

日時 10月9日（土）10:00～12:00 オンライン